



Health Bulletin

ほけんだより

July

まだまだ梅雨のお天気が続いています。晴れ間が覗いた日にはとても気温が高くなり、夏の訪れを感じるようになりました。梅雨と夏の合間の時期ですので、よく眠れない、食欲が落ちるなど不調になるお子さんもいるかもしれません。またコロナ5類への移行に伴い、抵抗力が弱いお子様の夏風邪などの感染症で、お休みするお子様も増加しています。今月からお天気や気温と相談しながら水遊びも始まります。お家でのお子様の様子も伺いながら今月も学習や遊びを楽しく過ごしていきたいと思います



No.51

2023年7月1日

Mothering



6月のニュースにも話題になっていますが、全国各地でこどもの感染症が増加しています。夏は、子どもの感染症が流行しやすい時期です。夏風邪と言われる「ヘルパンギーナ」や「手足口病」の流行のスタートが5~6月であることを知っていますか？夏に向けて患者数がだんだんと増えていき、7月にピークを迎えます。

右の表には“こどもの感染症”として夏に流行するものを載せました。「どうすれば感染症から身を守ることができるのか」「どんな症状があるのか」などをご参考にしてください。再度手洗いをしっかり行うなどの感染予防に努めていただければと思います。

↓6月3週目さいたま市さいたま市の感染状況です。

■ 定点把握対象疾患【報告数が上位の疾患】

※その他の定点把握対象疾患は、「感染症発生動向調査 週情報(患者報告数、定点当たり報告数、年齢階級)」をご覧ください。

順位	疾患名	定点当たり患者報告数		2週間前からの傾向	過去5年間の同時期との比較
		今週	前週		
①	感染性胃腸炎	8.07	9.04	減少	例年並み
②	ヘルパンギーナ	4.25	2.14	増加	かなり多い
③	新型コロナウイルス感染症	3.70	3.26	増加	—
④	RSウイルス感染症	2.25	2.54	横ばい	かなり多い

【病児保育をご利用ください】

保育園ではお熱が出たり、下痢をしたり、鼻水、咳が出たり…と様々な症状のお子様が登場後に早退しております。一人が発症するとすぐに他のお子様にも感染が拡大いたします。こども達が安心して園生活をすごせるよう、そして保護者様の安心のためにも、お仕事の途中で呼び出されないように病児保育をご活用ください。詳細は各園の保育士・看護師にご相談ください。

	ヘルパンギーナ	RSウイルス感染症	手足口病	咽頭結膜熱(プール熱)
主な症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 突然の高熱で発症し、口の中の奥の方に水疱や潰瘍ができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発熱、咳、鼻水、咽頭痛、頭痛、倦怠感(元気がない等)など、かぜに似た症状です。 ● 肺炎を起こすなど重症化することもあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 口の中、手のひら、足の裏などに、発しんや水疱ができます。あまり高い熱は出ません。 ● 重症化はまれですが、合併症として急性脳炎や心筋炎があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発熱、咽頭炎(のどのはれ)、結膜炎(目の充血)などの症状があらわれます。
原因ウイルス	エンテロウイルス属のウイルス(コクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71型等)	RSウイルス(Respiratory Syncytial Virus)	エンテロウイルス属のウイルス(コクサッキーウイルスA群、エンテロウイルス71型等)	アデノウイルス
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛まつ感染 ● 水疱の内容物や便の中のウイルスが、手を介して口や眼などの粘膜に入ることによる経口及び接触感染 ● 咽頭結膜熱は、感染力が強く、プールや温泉施設などでの感染もあることから「プール熱」とも呼ばれています。 			
治療	<ul style="list-style-type: none"> ● つらい症状をやわらげる対症療法が中心です。 ● 咽頭結膜熱は、眼の症状が強い場合は眼科での治療を行います。 ● ワクチンや特効薬はありません。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事や水分がとりにくくなり、脱水症状をおこすことがあります。水分補給に努め、柔らかく、刺激の少ない食事を工夫しましょう。 ● ぐったりしている、呼びかけに対する反応が鈍い、意味不明の言動がみられるなどの症状が現れた場合はすぐに受診しましょう。 ● 特にRSウイルス感染症については、小さなお子さんにかぜのような症状が見られ、熱が38度以上に上がる、呼吸が浅く速くなる、ゼイゼイと咳が続く、痰が詰まる、急にぐったりするなどの様子が見られたときは、早めに医療機関を受診しましょう。 中でも、生後6か月未満の乳児や低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある方の場合、重症化しやすいとされるため注意が必要です。 			